

編輯室の内外

御即位の大禮を擧げさせられた、意義ある目出たき昭和の三年も、今こゝ月餘で暮れて行く。

年額三百五十萬圓と相場附けられてゐた道路改良費豫算が、六百五十萬圓に増加、まだ議會の協賛を得ないにせよ、一新會やら床次黨の妥協やらで、議會は無事に通過するに決つてゐる、是で曲りなりにも純眞な産業開發に必要な道路も改良される譯我國路政の劃期的進展の歳とも言ひ得る、併し一年限りの豫算でない明年も明後年も漸次増額に力める覺悟が必要だが、忘れて貰つてならむことは昭和三年度産業道路費の追加豫算だ、三百萬圓位殖へたことを得意がつて人情話しに耽つてゐると、追加豫算財源の剩餘金二千四百萬圓は、日一日と消えてなくなる、用意は十分か。

編輯室の内外

揉みに揉んだ乗合自動車の主管も、さうさう鐵道省にとられて終つた、鐵道省の主管するのは運輸營業だけのこぢぢや道路に對する關係は依然從前通りだ、と、理屈を並べてゐても、望月内相の言ぢやないが、内務省が各省の司でない限り、鐵道大臣の權限をどうすることも出来ない筈、自動車の通行を助勢する爲めに産業道路を改良したところで、其の道路を民衆的に使用する乗合自動車の運轉を、鐵道大臣が罷りならぬと言つたら、一體どうする積りか、路政は土を掘り橋を架けることが本能でない、産業道路費豫算は是認されても片手に乗合自動車を通してゐれば、跛の路政だ、唯だそれでも可いのか。お陰で折角發達しかけた乗合自動車も、鐵道の爲に押へ附けらるゝ事さ爲るのに、之にお氣が附かないのか、乗合自動車の經營者共は、自動車行政の統一など、喜んでゐる、血の廻りの悪いこと、モロ少し覺醒するが可い。憶、コー考へて見ると世の中には随分馬鹿が多いことヨ

道路講演會やら、交通情勢調査も終る、東北地方道路の改良宣傳も盛會裡に終つた、是で本年度の事業も過半終了、責を軽くして越年することが出来る、是も讀者各位のお蔭だ、謹んでお禮を申上ぐ、終に臨んで失敬だが、年内に玉稿を寄せられた各位に深甚の敬意を表して、本年の筆を擱く。(路政僞)

本號定價 五拾錢

一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内

發行所 社団法人 道路改良會

編輯者 上山 陸造

東京市小石川區久堅町一〇八

印刷所 共同印刷株式會社

印刷者 君 島 潔